

8 働きがいも
経済成長も



再配達問題

13 気候変動に
具体的な対策を



上田染谷丘高等学校 1年 渡辺 嘉希

「宅配便、宅急便で商品が届いた」という経験。ありますよね？

今や私達の生活に欠かせなくなった物流の仕事

世界で大いに活躍している裏で、「再配達」が問題となっています

→(ニュースを見て)なんとかならないかなあ

→まず知ることから始めました

そもそも「再配達問題」って何なの？

物流の世界で問題視されている

配達員の負担が尋常じゃない→物流が滞る

経済的損失がデカい

じゃあSDGsとどんな関係があるんだよ

CO2の排出量が増える

2019年の記事です。

2019年10月の国内の再配達率は全体で15.0%。配達総数229万5395個に対し、再配達数は34万4139個だった。地方は11.5%にとどまったのに対し、都市部は16.6%、都市部近郊は14.3%と、比較的高い傾向が続いている。同省は、二酸化炭素(CO2)の排出量削減や、宅配ドライバー不足解消のため、2020年度に13%程度まで引き下げる目標を掲げているが、改善が進んでいない実態が浮き彫りになった。

国土交通省のホームページ より抜粋

再配達トラックから排出されるCO₂の量は、年間でおおよそ25.4万トン(2020年度国交省試算)と推計されており、宅配便の再配達は地球環境に対しても負荷を与えています。

じゃあどうすればいいの

1番はやはり、家で荷物を受け取る

...でも家にいないときは無理じゃん。

はい。無理です。

でも対策はあります。

アプリによる再配達対策も

株式会社ウケトルは2016年より、ヤマト運輸と佐川急便、日本郵便など大手宅配業者と連携して、再配達を減らすことを目的としたスマートフォン「ウケトル」の提供を開始。

荷物が近くの営業所に到達した時点で、利用者のスマートフォンに通知が届き、不在の場合はその時点で別の日程に変更することができます。利用者の不在が事前に分かるため、宅配業者が不在の家に出向いていくことがなくなります。

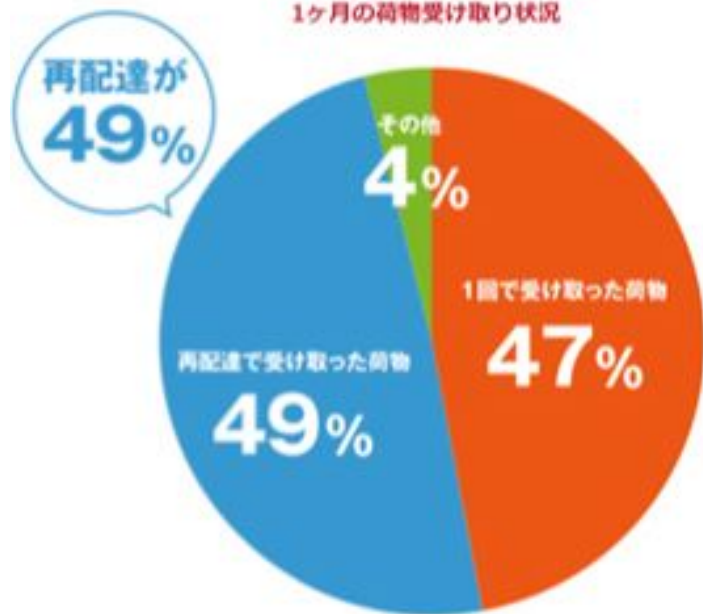
「ウケトル」のユーザーは現在10万人を超え、2017年の時点で、アプリの利用により不在配達が1割以上も減ったと発表されています。

お店や施設のサービスを活用する

再配達を減らすために有効な手段として、郵便局やコンビニエンスストア、宅配ロッカーの利用など、荷物を一時的に預かってくれる施設やサービスを利用する方法があります。これらの方法は受け取り時間に合わせて自宅で待つ必要がないため、利用者にとっても大きなメリットがあるのですが、まだ十分に普及しているとはいえません。

宅配ボックス設置の結果

<宅配ボックス設置前>
1ヶ月の荷物受け取り状況



受取り荷物総数
583回/月

<宅配ボックス設置後 12月～3月>
4ヶ月の荷物受け取り状況



荷物総数
2,258回/4ヶ月

ドライバーの方々のため、
地球のため、
みなさんの欲しい商品のために
活用してみてはいかがでしょうか

ご清聴ありがとうございました

参考

国土交通省ホームページ

https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/re_delivery_reduce.html#section-0

ドライブワーク

https://www.driver-staff.com/column_2039/#:~:text=%E5%86%8D%E9%85%8D%E9%81%94%E3%82%92%E6%B8%9B%E3%82%89%E3%81%99%E3%81%9F%E3%82%81%E3%81%AB%E6%9C%89%E5%8A%B9%E3%81%AA%E6%89%8B%E6%AE%B5%E3%81%A8%E3%81%97%E3%81%A6,%E3%81%A8%E3%81%AF%E3%81%84%E3%81%88%E3%81%BE%E3%81%9B%E3%82%93%E3%80%82